

令和2年度文部科学省

「幼稚園の人材確保支援事業」

調査研究事業報告書

公益社団法人北海道私立幼稚園協会

「幼稚園の人材確保支援事業」の実施にあたり

子ども達の健やかな成長を支え、生きる力の基礎を培う重要な時期に質の高い幼児教育を提供することは、幼稚園にとって子ども達の生涯に関わる重要な責務である。その反面、これを担う幼稚園教諭・保育教諭の人材確保は、依然として厳しい状況が続いている。また、北海道においては令和3年度の養成校進学者が大きく減少し、幼児教育・保育現場における人材不足・人手不足は、将来的にもますます厳しくなっていくことが現実となってきた。

本年、新型コロナウイルス感染症の影響により、北海道をはじめ全国的な緊急事態宣言発出による休園。併せて、休園後も感染防止対策に伴う園内の衛生・安全管理、園児・教職員の健康管理など、業務と責任の大きな負担が求められることとなった。

このような中でも子ども達に少しでも通常と同様の教育・保育を提供するため、増え続ける様々な業務の一層の効率化、また、新たな仕組みへの取り組みが急務となった。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態に直面し、生活・仕事はもとより人々の価値観・考え方なども大きく変化する中、どのような環境であっても、質の高い幼児教育・保育、また、様々な保護者支援が重要になっていくと同時に、一方では現場においても働き方改革や業務効率化はもちろん教員への適切なサポートも重要になっている。

本事業も新型コロナウイルス感染症の影響により、当初計画から大きな変更や中止を余儀なくされたが、本年度は特に社会的にも大きく普及拡大した ICT の導入・支援をはじめ、より効果的な施策の実施を目的として、結果をここに報告し、人材確保・定着促進への課題解決に向けて、今後の事業実施に役立てるものである。

「幼稚園の人材確保支援事業」実施結果報告

[目次]

はじめに 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施にあたり

1. 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施概要

- (1) 調査研究テーマ
- (2) 調査研究課題
- (3) 事業計画の概要
- (4) 具体的な調査研究計画

2. 「幼稚園の人材確保支援事業」の事業実施結果及び分析結果

- (1) 「社会保険労務士等の活用による労務環境・就業規則等の改善」
- (2) 「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」
- (3) 「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

まとめ

1. 「幼稚園の人材確保支援事業」の実施概要（事業計画）

(1) 調査研究テーマ

- 社会保険労務士等の活用による労働環境・就業規則等の改善
- ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善
- 幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施

(2) 調査研究課題

幼稚園・こども園における人材確保については、労働人口の減少、質の高いきめ細かな幼児教育・保育の推進、また、新制度における必要な教員数の増加などの要因から年々厳しさを増す状況となっている。採用後の定着促進については処遇改善や働き方改革への取り組みにより、わずかながら改善の兆しを見せているが、まだ十分とは言えず、他業種と比較して依然と高い離職率と短い平均勤続年数となっている。

これらのことから、特に離職防止・定着促進、新規採用の促進の2つの課題について、効果的な施策の実施及び好事例の把握と波及を目的に調査研究・分析を行う。

結果については、各媒体や研修会等で普及・啓発を図り、現場における課題解決に向けて適切な取り組みができるよう、また、その取り組みが幼児教育・保育の質の向上に寄与できる内容とすることを目的とする。

「社会保険労務士等の活用による労働環境・就業規則等の改善」

実施する事業について、下記の事項等について調査研究を実施する。

- ① 社会保険労務士等と連携し、労働環境、就業規則、ワークライフバランス等に関する研修会を実施し、園における労働環境の改善、制度改革、また、多様な人材を活用できる環境づくり、教職員のワークとライフの両立と充実が適切に図ることができるよう、取り組みをすすめる。
- ② 調査及び効果測定に基づき、労働環境の実態、改善に取り組む際の課題、また、様々な事例を研究し、人材確保・離職防止・定着促進への効果を高める方策を研究する。
- ③ 実施にあたっては、北海道教育庁及び北海道私立学校所管課と連携し、取り組みを推進する。

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

実施する事業について、下記の事項等について調査研究を実施する。

- ① 前年度、団体に配置した ICT 支援員を活用し、「学校教育情報化推進法」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」、「GIGA スクールネットワーク構想」など、国が推進する教育の ICT 化の様々な施策や Society5.0 への取り組みを踏まえ、ICT 化による教員の業務負担軽減を図ることを目的に、道内 11 地域で ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- ② ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 5 園程度）をモデル園とし、導入・活用の支援を行う。

- ③ 調査及び効果測定に基づき、現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックを分析するとともに、モデル園における ICT の導入・活用調査・ICT 化による効果などについて PDCA を行い、その他の事例と併せて、ICT 化による業務改善等の効果を高める方策を研究する。
- ④ 実施にあたっては、北海道教育庁及び北海道私立学校所管課と連携し、取り組みを推進する。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

実施する事業について下記の事項等について調査研究を実施する。

- ① 養成校に訪問し、幼稚園教諭の魅力発信を PR し、その内容と効果、また、就職先意向等について定性的評価を行う。
- ② 継続的に本事業を実施し、本事業が学生の就職意識や園における新規採用について、長期的にどのような効果があったかについて分析を行う。
- ③ 幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレット・ポスターの作成、Web サイトの拡充を行い、養成校の学生及び高校生等に向けて PR を図る。
- ④ 高等学校モデル校において、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、職業理解と幼稚園教諭の魅力発信を行う。
- ⑤ 養成校・高等学校・幼稚園の三者による公開懇談会を開催し、幼稚園教諭・幼稚園の仕事・労働環境・待遇等について、高等学校の進路指導担当教員及び担任・保護者に向けて、正しい現状を伝え、養成校への進学者増と幼稚園への就職者増を図る。
- ⑥ 調査及び効果測定に基づき、随時、実施する内容の改善を行い、新規採用における効果を高める方策を研究する。
- ⑦ 実施にあたっては、北海道教育庁及び北海道私立学校所管課と連携し、取り組みを推進する。

(3) 事業計画の概要

(現状と事業実施の経緯)

人材確保については、労働人口の減少ときめ細かな幼児教育・保育の重要性への期待とニーズ、併せて必要な教員数の増加、多様な働き方への対応などにより、社会的な人材不足が加速する中、国の施策である処遇改善や労働環境の改善を中心として働き方改革などについても、少しずつ取り組みが進んでいる。過去に実施してきた取り組みにおいても、改善に取り組む園が増え、また、その効果も少しずつ見え始め、平均勤続年数については5年前の約5年強から7年を超えるようになってきた。

しかしながら、早期離職率は減少傾向にあるものの、その反面、きめ細かな子どもたちへの対応と質の高い教育・保育へのニーズ、そして、さらに厳しさを増す人材確保などにより、教員への業務負担は増加し続けており、一般労働者（女性・長時間）の平均勤続年数 9.7

年※1や他業種の離職率と比較しても、教員の労働環境の改善、離職防止・定着促進はまだ十分とは言えない状況である。

その要因として、一つは労働環境改善やワークライフバランスへの取り組みに対して、効果的なプロセスや具体的な取り組み方法への理解がまだ十分ではないこと。もう一つは増え続ける教員の業務負担に対して有効と考えられる ICT の効果的な活用手法や活用効果への理解が十分ではないことに加え、多くの園では ICT の活用を進めることができる人材が園にいないこと、そのためリテラシーの低さや導入に対する壁があることなどから、ICT の活用による業務改善がなかなか進まない現状がある。

新規採用においてもますます厳しい状況となっており、少しずつであるが改善が進んでいる労働環境・雇用条件について十分に伝わっておらず、幼児教育・保育の仕事は厳しいなどのイメージが定着し続けている面もあり、養成校卒業者が幼稚園・こども園以外の施設や民間企業など、より良い労働環境・条件を求めて他業種に就職する割合が年々増加し、さらには養成校への進学率も厳しい状況となっている。

昨年10月より実施された「幼児教育・保育の無償化」により教育・保育の質の向上が求められる中、意欲のある就職者を育て、豊かな経験と知見を持った教員として子どもたちに質の高い教育・保育を行うにはより一層の人材確保・離職防止・定着促進対策が急務である。

※1 出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「長期労働統計」より」

（事業の目的及び目標設定）

現状の課題背景により、幼稚園・こども園の労働環境・雇用条件、ワークライフバランス等の改善、働き方改革の実現に向けて研修を行うとともに、ICT化による業務改善の促進、そして、幼稚園教諭の魅力適切な発信を目的に事業実施を図るものである。

また、北海道教育庁幼児教育推進センター及び私立学校所管の北海道総務部法務・法人局学事課と連携し、行政も事業実施に積極的に参与することにより、団体のみならず行政の視点からもこの取り組みの重要性を伝え、方策の提案、実施などを図る。

各取り組みについてアンケートやヒアリングなどを通じて調査分析・効果測定を行い、離職防止・定着促進では一般労働者の平均勤続年数を目標として、長期的に事業を推進する。ICT活用による業務改善では導入前と導入後で作業工程数や時間外勤務の削減時間数にどのような変化があったかについて定量的評価を行い、併せてコミュニケーションや情報共有などに対する定性的評価についても比較検証を行う。幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報では、実施前と実施後の意識調査にて就職・進学意向の変化を検証し、併せて PR 用 Web サイトを開設し、その閲覧数向上を目標とするものである。

（具体的な事業実施項目）

「社会保険労務士等の活用による労働環境改善・就業規則等の改善」

- ① 社会保険労務士等と連携し、労働環境改善、就業規則整備、働き方改革、ワークライフバランス等に関する研修会を実施する。

- ② 行政から公立学校における働き方改革の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園におけるより効果的な実践につなげる。
- ③ 特に多様な働き方やワークライフバランスなどの働き方改革に対する取り組みを中心とし、風土改革、キャリアビジョン策定、導入・運用プロセス、他業種の先進的事例などを学び、効果的に離職防止・定着促進が図ることができる内容とする。
- ④ 研修内容及び研修実施後、園で実際に取り組みを行った内容・結果などについて、アンケート・ヒアリング調査を行い、効果的な事例を共有することにより事業実施の効果を高める。

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

- ① 昨年度、団体内に配置した ICT 支援員を効果的に活用し、道内 11 地域を目標値として、設置者・園長・事務長等の管理職のみならず、現場の教員までを対象として ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- ② 「学校教育情報化推進法」、「GIGA スクールネットワーク構想」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」など、国（文部科学省）が推進する教育の ICT 化に関する様々な施策や Society5.0 に向けた国の取り組みを踏まえながら、先端技術を低コストで導入し、ICT 環境の整備につなげられるよう具体的な提案とコンサルティングを行い、導入・活用の促進を図る。
- ③ 道内はもとより全国的な具体的実践例を、学校法人のみならず同様の課題に取り組み民間企業等からも学ぶ機会を設け、各園の現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックの把握、具体的な事例と活用に関して情報提供を行い、ICT 化による教員の業務負担軽減を図る内容とする。
- ④ 資料や講演だけではなく、実際に園で活用可能な機器等を用いたデモンストレーションを行い、体験を通じて園で導入した際の業務改善効果を体験・イメージできるような内容を盛り込み、ICT に対する疑問や壁を取り除き、効果的な活用につなげる。
- ⑤ ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 5 園程度を目標値）をモデル園とし、導入・活用の支援を行う。また、その状況について事例としてまとめ、ICT の導入・活用に関するアンケート調査とともに全園で共有を図り、事業実施の効果を高める。
- ⑥ 行政から公立学校における ICT による業務改善、校務の効率化の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園における効果的な実践につなげると共に、公立学校とも情報共有を行い、さらに効果的な取り組みとする。

「幼稚園における幼稚園教諭志願者・再就職志望者等の受入体制の構築」

- ① 北海道内の幼稚園教諭養成校（32 校中 10 校を予定）に当団体担当者、現役幼稚園教諭・保育教諭が訪問し、幼稚園教諭及び保育教諭として就職を希望・検討している学生に対し、その魅力を PRするとともに、実態・魅力・キャリアパスイメージ等について情報提供、先輩教員の体験談・質疑・ディスカッションなどを実施する。

- ② 幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレットの作成、Web サイトの拡充を行い、養成校の学生に向けてPRを図る。
- ③ 行政からも北海道における幼児教育の重要性及び幼児教育推進センターを中心とした取り組みなどについて発信し、さらに効果的な取り組みとすることを図る。
- ④ 北海道内の幼稚園教諭養成校と連携協力し、新規採用に関して定期的な情報交換を行い、事業が幼稚園教諭・保育教諭の採用促進に資する内容となるよう推進する。
- ⑤ 高等学校モデル校において、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、職業理解と幼稚園教諭の魅力発信を行う。
- ⑥ 幼稚園教諭を目指す高校生には確実に養成校へ、選択肢として検討中の場合には養成校への進学希望を高め、幼稚園教諭という選択肢を考えていない高校生には少しでも興味関心を抱いてもらうことを目的に、より多くの高校生に養成校へ進学してもらえよう、高校生とその保護者・高等学校の進路指導担当者に向けて、ポスター・Web サイトなど多くのメディアを通じて、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力等を発信し、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数の増加へ繋げる。
- ⑦ 養成校・高等学校・幼稚園の三者による公開懇談会を開催し、幼稚園教諭・幼稚園の仕事・労務環境・待遇等について、高等学校の進路指導担当教員及び担任・保護者に向けて、正しい現状を伝え、養成校への進学者増と幼稚園への就職者増を図る。
- ⑧ 内容改善と効果的な事業実施を進めるため、アンケート調査を実施し、過去の同様の事業にて実施したアンケート調査と比較しながら、その調査を継続して行い、施設形態ごとの就職率、早期離職率などを検証・研究し、事業実施の効果を高める。

(調査研究のポイント)

調査研究テーマに対する事業実施にあたり、北海道教育庁幼児教育推進センター及び私立学校所管の北海道総務部法務・法人局学事課と連携し、調査研究実行委員会の構成員として行政の視点から検討・計画・運営・調査分析に参加する。併せて、各事業実施の際にも同行し、運営や講師等として参加する。

また、周知・啓発等にあたっては北海道と連携することにより、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書やWeb サイト等で共有・発信することを図る。

さらには幼稚園教諭・保育教諭養成校とも同様の取り組みを行い、当協会・北海道・道内養成校の三者が密接な連携協力をすることにより、一層効果的な取り組みとする。

(4) 具体的な調査研究計画

① 目的

調査分析及び効果測定の結果に基づき、実施施策の内容について検証・改善を行い、目的の達成のための効果を高める手法を研究する。

② 内容・計画・実施・分析

「社会保険労務士等の活用による労務環境改善・就業規則等の改善」

- ア. 社会保険労務士等と連携し、労務環境改善、就業規則整備、働き方改革、ワークライフバランス等に関する研修会を実施する。
- イ. 行政から公立学校における働き方改革の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園におけるより効果的な実践につなげる。
- ウ. 労務環境・就業規則等の整備はもとより、特に多様な働き方やワークライフバランスなどの働き方改革に対する取り組みを中心とし、風土改革、キャリアビジョン策定、導入・運用プロセス、他業種の先進的事例などを学び、効果的に離職防止・定着促進が図ることができる内容とする。
- エ. 研修内容及び研修実施後、園で実際に取り組みを行った内容・結果などについて、アンケート・ヒアリング調査を行い、効果的な事例を共有することにより事業実施の効果を高める。
- オ. 重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたっては定量的評価はもとより、自由記述やヒアリングなどにより対象者が持つ意見・意識も重視し、これらの定性的評価をスコアリングやテキストマイニングなどにより可能な限り可視化し、調査研究を効果的に事業に反映できるよう仕組みを構築する。
- カ. 周知・啓発等にあたっては北海道、また、当協会と道内養成校で組織する北海道幼児教育連絡協議会と密接に連携し、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書・Web サイト等で共有・発信することを図る。

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

- ア. 昨年度、団体内に配置した ICT 支援員を効果的に活用し、道内 II 地域を目標値として、設置者・園長・事務長等の管理職のみならず、現場の教員までを対象として ICT への理解・導入・活用等に関する研修会を実施する。
- イ. 「学校教育情報化推進法」、「GIGA スクールネットワーク構想」、「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」など、国（文部科学省）が推進する教育の ICT 化に関する様々な施策を踏まえながら、先端技術を低コストで導入し、ICT 環境の整備につなげられるよう具体的な提案とコンサルティングを行い、導入・活用の促進を図る。
- ウ. 道内はもとより全国的な具体的実践例を、学校法人のみならず同様の課題に取り組み民間企業等からも学ぶ機会を設け、各園の現状課題や導入・活用にあたってのボトルネックの把握、具体的な事例と活用に関して情報提供を行い、ICT 化による教員の業務負担軽減を図る内容とする。

- エ. 資料や講演だけではなく、実際に園で活用可能な機器等を用いたデモンストレーションを行い、体験を通じて園で導入した際の業務改善効果を体験・イメージできるような内容を盛り込み、ICTに対する疑問や壁を取り除き、効果的な活用につなげる。
- オ. ICT 支援員の派遣を希望する園（最大 5 園程度を目標値）をモデル園とし、導入・活用の支援を行う。支援については導入検討から導入、活用支援、課題抽出、解決支援、効果分析の PDCA を行い、人数や作業量に合わせて 4~6 ヶ月程度を 1 サイクルとして行う。また、その状況について事例としてまとめ、ICT の導入・活用に関するアンケート調査とともに全園で共有を図り、事業実施の効果を高める。
- カ. 行政から公立学校における ICT による業務改善、校務の効率化の具体的実践事例（課題・取り組み事例・効果等）を学ぶ機会を設け、園における効果的な実践につなげると共に、公立学校とも情報共有を行い、さらに効果的な取り組みとすることを図る。
- キ. 重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたっては定量的評価はもとより、自由記述やヒアリングなどにより対象者が持つ意見・意識も重視し、これらの定性的評価をスコアリングやテキストマイニングなどにより可能な限り可視化し、調査研究を効果的に事業に反映できるよう仕組みを構築する。
- ク. 周知・啓発等にあたっては北海道、また、当協会と道内養成校で組織する北海道幼児教育連絡協議会と密接に連携し、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書・Web サイト等で共有・発信することを図る。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

- ア. 北海道内の幼稚園教諭養成校（32 校中 10 校を予定）に当団体担当者、現役幼稚園教諭・保育教諭が訪問し、幼稚園教諭及び保育教諭として就職を希望・検討している学生に対し、その魅力を PRするとともに、実態・魅力・キャリアパスイメージ等について情報提供、先輩教員の体験談・質疑・ディスカッションなどを実施する。
- イ. 幼稚園教諭の魅力発信に関するリーフレットの作成、Web サイトの拡充を行い、養成校の学生に向けて PR を図る。高等学校においては進路指導担当教員、また、生徒にもいまだに労働環境・労働条件が悪いという職業としてのネガティブイメージがあり、進路指導担当教員が養成校への進学を進めなかったり、そもそも生徒が進路として考えていない状況もあるため、年々改善されている正しい姿を伝え、進路として検討できるような内容とする。また、養成校の学生には労働環境・労働条件とともに、幼児教育の重要性や子どもとの触れ合いなど職業の社会的な意義と魅力について現職教員の声を交えて伝える。リーフレットは養成校を通して配布し、Web については各養成校・高等学校への通知と教育委員会への周知依頼を行い、併せて SNS 等を活用し周知を行う。Web サイトについては適切なアクセス解析ソリューションを通して、その効果を分析する。
- ウ. 行政からも北海道における幼児教育の重要性及び幼児教育推進センターを中心とした取

り組みなどについて発信し、さらに効果的な取り組みとすることを図る。

- エ. 北海道内の幼稚園教諭養成校と連携協力し、新規採用に関して定期的な情報交換を行い、事業が幼稚園教諭・保育教諭の採用促進に資する内容となるよう推進する。
- オ. 高等学校モデル校において、保育計画策定から体験保育、実践発表を共同学習授業の一環として実施し、職業理解と幼稚園教諭の魅力発信を行う。
- カ. 幼稚園教諭を目指す高校生には確実に養成校へ、選択肢として検討中の場合には養成校への進学希望を高め、幼稚園教諭という選択肢を考えていない高校生には少しでも興味関心を抱いてもらうこと、また、高等学校の進路指導に対し幼児教育現場の正しい現状を伝えることを目的とする。

本年度は高校生をメインターゲットとし、より多くの高校生に養成校へ進学してもらえよう、高校生とその保護者・高等学校の進路指導担当者に向けて、ポスターを作成・配布し、ポスターから Web サイトへ誘導を行い、併せて SNS など多くのメディアを通じて、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力等を発信し、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数の増加へ繋げる。

ポスターは現在の高校生が幼児期より親しんできた、北海道の絵本作家の協力を得て制作。絵本という切り口から、幼稚園教諭や幼稚園を想起させ、また、一目で興味関心を引く内容とする。幼児期から親しんできた絵本の主人公をデザインに利用することにより、段階的にターゲットの年齢を低年齢層まで拡大し、将来的には幼稚園から小・中・高校と小さな頃から幼稚園教諭という職業に対し、継続的な接点を持ち続けることで、「大きくなったらなりたいもの」の常に上位となりながら、職業として実際に結びついているとは言い難い状況を改善する起点とする。ポスターから誘導する Web サイトについてもデザインをポスターと統一し、高校生はもとより中学生、また、その保護者にもわかりやすい内容とし、現任教員のインタビューや現場の様子、労働環境が大きく改善されていることなどの実際の状況を掲載しながら、職業について夢を持ち、イメージ向上を図りながら、具体的に自分の進路と結びつけることを目的とする。Web サイトについては、詳細なアクセス解析が可能なものとし、その効果を測定する。

さらには、北海道教育委員会・北海道庁の協力を得ながら、養成校、高等学校、幼稚園の三者によるシンポジウムを開催し、映像を各高等学校の進路指導・担任等に向けて、具体的な仕事の現状、大きく改善されている労働環境等について正しく伝え、その効果を高める。

- キ. 内容改善と効果的な事業実施を進めるため、アンケート調査を実施し、過去の同様の事業にて実施したアンケート調査と比較しながら、その調査を継続して行い、施設形態ごとの就職率、早期離職率などを検証・研究し、事業実施の効果を高める。
- ク. 重要業績評価指標（KPI）を設定し、アンケートやヒアリング調査等から、実施前と実施後における定量的評価及び定性的評価を行い、その効果について検証・比較・研究、達成度合いの評価等を実施する。検証・分析にあたっては定量的評価はもとより、自由記述やヒアリングなどにより対象者が持つ意見・意識も重視し、これらの定性的評価をスコアリングやテキストマイニングなどにより可能な限り可視化し、調査研究を効果的に

事業に反映できるよう仕組みを構築する。

- ケ. 周知・啓発等にあたっては北海道、また、当協会と道内養成校で組織する北海道幼児教育連絡協議会と密接に連携し、北海道全体として、公立・私立、幼・保・小・中・高の垣根なく調査研究テーマに対する重要性や取り組み内容等を報告書・Web サイト等で共有・発信することを図る。

③ 調査研究体制の特色

調査研究実行委員会は当協会の代表者をはじめ、行政から北海道の私立幼稚園所管課及び北海道教育庁幼児教育推進センターの代表者、また、幼稚園教諭・保育教諭養成校の代表者をもって組織する。事務及び会計処理についても「公益社団法人北海道私立幼稚園協会」を主体に協会の各事業委員会が積極的に参与し、適切に処理される運営体制が整っている。

特に北海道の私立学校所管部署である学事課及び北海道教育庁の幼児教育推進センターと連携協力し、行政と一体となって調査研究テーマとなる喫緊の課題に対する調査研究にあたる。

また、北海道内の幼稚園教諭・保育教諭養成校（大学・短期大学・専門学校）32校と当協会で組織する「北海道幼児教育連絡協議会」とも密接に連携協力を図りながら、養成課程の視点からも離職防止・定着促進、新卒採用の促進に向けて調査研究を実施する運営体制が整っている。

2. 「幼稚園の人材確保支援事業」の事業実施結果及び分析結果

「社会保険労務士等の活用による労務環境・就業規則等の改善」

(1) 目的

本事業の目的は下記内容の各事業を実施し、適切な調査分析・効果測定を行い、より効果的な施策実施に反映させていくことを目的とする。これにより、人材確保・離職防止・定着促進を推進し、円滑な園運営を行い、ひいては幼児教育・保育の質の向上につなげることを目的としたものである。

(2) 取組内容について

新型コロナウイルス感染症の影響により、当該内容について計画していた研修・事業は中止となった。

「ICT 支援員等の活用による ICT 化による業務改善」

(1) 目的

本事業を実施することにより、業務効率化を進め、園・教職員の業務負担の軽減を図る。調査及び効果測定に基づき、園務における課題・解決方法、導入・活用時の事例・効果等を研究し、その効果を高める手法を研究する。

(2) 取組内容について

① ホームページを活用した園の PR について

実施内容：「ホームページ活用勉強会」

自園のホームページを活用し、園の魅力を正しく効果的に伝え、園の魅力発信や人材確保につなげる手法について、ホームページの分析と事例を通して学ぶ研修を実施した。

日時：令和3年3月24日（水）10：00～12：00・14：00～16：00

会場：TKP ビジネスセンター赤レンガ前

実績：道内私立幼稚園等の設置者・園長・事務長・事務担当者等9名

講師：株式会社ガーディアン 有本直樹氏

公益社団法人北海道私立幼稚園協会事務局 主幹 馬場克典

（ICT支援員・Google for education 認定教育者）

【参加者アンケート結果】

1. 勉強会参加の目的。（複数回答13）

- ・ホームページの問題解消 23.1%
- ・ホームページの現状把握 23.1%
- ・ホームページの改善 15.4%

2. 勉強会の内容は参考になりましたか。（回答数9）

- ・非常に参考になった 66.7%
- ・参考になった 33.3%

3. 今回の勉強会の内容で活用できる箇所はありましたか。（回答数9）

- ・今すぐ活用したい 36.0%

- ・活用を検討 36.0%
- ・どちらとも言えない 11.1%

4. また、同じような勉強会やセミナーがあった場合、参加しますか。(回答数 8)

- ・参加したい 50.0%
- ・案内を希望 37.5%
- ・どちらとも言えない 12.5%

② ICT 支援員の派遣について

実施内容：「ICT 支援員の派遣による業務効率化等への理解・活用促進」

ICT 支援員の派遣依頼があった園をモデル園とし、園における ICT 導入・活用について課題や要望を調査し、働き方改革や業務効率化等に向けたソリューションの導入・活用支援を行い、継続的にその効果について検証を行う。また、その結果について広く普及を行い、人材確保・定着促進に向けて幼児教育・保育業界における ICT 利活用の促進を進める。

ア. 東苗穂スパークル園

日時：令和 2 年 9 月 8 日（火）10：00～12：00

会場：東苗穂スパークル園

実績：東苗穂スパークル園・認定こども園よしのの園長・教職員 4 名

講師：公益社団法人北海道私立幼稚園協会事務局 主幹 馬場 克典

（ICT 支援員・Google for education 認定教育者）

イ. 学校法人ききょう学園認定こども園ききょう幼稚園

日時：令和 2 年 10 月 1 日（木）17：00～19：00

会場：学校法人ききょう学園認定こども園ききょう幼稚園

実績：認定こども園ききょう幼稚園の園長・教職員 20 名

講師：公益社団法人北海道私立幼稚園協会事務局 主幹 馬場 克典

（ICT 支援員・Google for education 認定教育者）

ウ. 学校法人北見光華学園認定こども園北見北光幼稚園

日時：令和 3 年 2 月 8 日（月）13：00～16：00

会場：学校法人北見光華学園認定こども園北見北光幼稚園

実績：認定こども園北見北光幼稚園の園長・教職員 16 名

講師：公益社団法人北海道私立幼稚園協会事務局 主幹 馬場 克典

（ICT 支援員・Google for education 認定教育者）

【意見・感想】

- 自分たちの課題に合わせて、どんなことが必要なのかよく理解できた。
- 課題はあったが、ICT 自体がよくわからずどうやって課題を解決できるかわからなかったが、ICT 導入のきっかけとなる研修だった。
- ただ、ICT 化を図るのではなく、自分たちの課題の抽出や検討方法、ICT 化を進める際のステップまで知ることができたのが良かった。

- 個人で作業していたものが、共同で作業できることを知り、業務効率化が進められる。
- ICTでどのようなことができるかわかった。これから何度か研修やサポートを受け、働きやすい環境にしていきたい。
- 自園の課題解決にあたり、具体的にどのようなシステムが良く、どのくらいの費用がかかるのか知りたい。
- 業者からの提案ではなく、幼児教育施設を理解している支援員が第三者の目から情報提供してくれるので、とても参考になる。

〔 実施するプロセス 〕

幼児教育・保育業界においては業務の中で旧態依然としたアナログ方式による遂行・管理が中心となっており、多くの場面で ICT の活用による業務効率化が見込まれるにも関わらず、リテラシー向上及び活用は進んでいない。このことから、ICT への理解を進めるとともに、具体的な導入・活用方法を提供し、また、ワークショップでの体験を通して心理的な壁を取り除くなど、最初の段階から各ステップ、各園の現状に合わせた支援を行い、業務改善・業務効率化につなげる。

〔 助言等の反映・工夫した点・留意点 〕

幼稚園・こども園が ICT 化を進めるにあたって抱えている課題である、幼児教育・保育施設には ICT は馴染まないという思い込み、ICT を担当できる職員の不足、何をどのようにして良いのかわからないという情報不足などを解消し、各園の状況に合わせた適切なソリューション選定、ICT リテラシーの向上等の支援を進めるため、幼稚園・こども園の現状や課題を理解している協会内部に ICT 支援員を配置し、ICT を正しく理解してもらい、背景・目的・効果を適切に伝えるよう取り組んだ。

昨年度に続き、本年度も本事業を実施した園の中からモデル園を選定し、園の現状・課題・導入支援・効果測定を実施することとし、その結果を ICT にかかる情報提供と併せて各園に共有し、その効果を高めることとした。

〔 実施効果 〕

昨年度から ICT に関する研修を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、導入・活用への意向が非常に高まっている。

実施園にヒアリングし、各園の実情に合わせて研修を組み立てていることから、実施内容は大変満足度が高く、当初予想以上の効果があったものと考えられる。また、GIGA スクール構想で多くの教育委員会、小・中・高等学校が導入をしている Google workspace for education のワークショップなどの業務効率化に向けた体験も行った結果、多くの園が業務効率化に向けて ICT の導入・活用を進めはじめている。

ICT の理解・導入・活用を業務改善・働き方改革等の課題解消に対する有効な方法であると捉え、非常に関心が高い園が多いことから、適切な情報提供や支援を行うことにより、理解・導入・活用が進むことが想定され、継続して実施することにより本事業は大変効果が高い事業だと思われる。

継続した個別の支援はもとより地域単位での研修の要望も多いため、今後、引き続き研修や情報提供・支援を行っていく。

〔 今後の課題 〕

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、ICT の導入・活用等に対して非常に関心が高まっている。しかし、自園の課題が漠然としており、また、どのようなシステム・ソリューションを導入してよいかわからないという園が多いため、これらに関する情報提供・支援を継続していく。
- ・ 継続的に複数回の支援を希望する園が多く、回を重ねながらステップアップしながら目標とする ICT 化を支援していく必要がある。
- ・ 様々ケースに対する効果的なシステム・ソリューションの選択方法などをはじめ、多くの情報をわかりやすく整理した上、情報提供・共有を図っていく。
- ・ 支援を行っているモデル園で実際に導入・活用前と後でどのような変化や効果があったのかを具体的にヒアリングや調査を行い、他園での支援や地域における研修会などでの実績発表等を行い、波及効果を高める方策に取り組む。

「幼稚園教諭の魅力発信のための PR・広報の実施」

(1) 目的

幼稚園教諭養成校に訪問する「幼稚園・こども園キャラバン」においては、幼稚園教諭の仕事、幼稚園・こども園の PR を図るとともに就職に対する疑問や不安を解消し、幼稚園教諭への就職を推進するとともに就職後のミスマッチ解消につなげ、これにより、人材確保・離職防止・定着促進を推進し、円滑な園運営を行い、ひいては幼児教育・保育の質の向上につなげることを目的としたものである。

また、「幼稚園交流事業」においては、高校モデル校において教科横断的な体験学習活動を通して幼児教育・保育について考え、その意義の理解を図る。また、幼児への関心を深めるとともに経験を広げ、社会性や豊かな心を育てる。実際の保育活動から幼稚園教諭の仕事内容を理解し、自らの進路選択の幅を広げることを目的としたものである。

さらには道内高等学校や養成校にリーフレット・ポスターの配布を行い、リーフレット・ポスターから Web サイトに誘導し、幼稚園教諭や幼児教育・保育の魅力を発信して、養成校への進学率を高め、免許保持者の絶対数増加につなげる。併せて、養成校・高等学校・幼稚園の三者によるシンポジウムの映像を各高等学校の進路指導・担任等に向けて配信し、具体的な仕事の現状。大きく改善されている労働環境等について正しく伝え、その効果を高める。

(2) 取組内容について

① 幼稚園・こども園キャラバン

実施内容：幼稚園・こども園及び幼児教育・保育の魅力を PR するとともに、就職に向けた疑問や不安解消に向けて現場の教職員等とディスカッションを実施。令和 2 年度については新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンライン配信も可能とし、幼稚園教諭養成課程を有する養成校 32 校中、申し込みのあった 9 校（201 名参加）にて実施した。

ア. 函館大谷短期大学こども学科

日時：令和 2 年 9 月 17 日（火）10：40～12：10

会場：函館大谷短期大学

実績：こども学科に在籍する学生 42 名（2 年生）

- イ. 札幌医療秘書福祉専門学校医療保育科
日時：令和2年9月28日（月）14：00～15：30
会場：札幌医療秘書福祉専門学校
実績：医療保育科に在籍する学生27名（1年生）
- ウ. 明日佳幼児教育専門学校幼児保育学科
日時：令和2年10月2日（金）15：00～16：30
会場：明日佳幼児教育専門学校
実績：幼児保育学科に在籍する学生7名（3年生）
- エ. オホーツク社会福祉専門学校こども未来学科
日時：令和2年10月5日（月）12：30～14：00
会場：オホーツク社会福祉専門学校
実績：こども未来学科に在籍する学生25名（1年生）
- オ. 札幌大谷大学短期大学部保育科
日時：令和2年10月7日（水）14：50～16：20
会場：オンライン配信
実績：保育科に在籍する学生14名（2年生）
- カ. 札幌国際大学人文学部心理学科子ども心理専攻
日時：令和2年10月26日（月）14：20～16：10
会場：オンライン配信
実績：心理学科子ども心理専攻に在籍する学生31名（2年生）
- キ. 専門学校北海道福祉・保育専門学校保育未来学科
日時：令和2年11月11日（水）14：30～16：00
会場：専門学校北海道福祉・保育専門学校
実績：保育未来学科に在籍する学生10名（1年生）
- ク. 北翔大学教育文化学部教育学科
日時：令和2年12月15日（火）13：10～14：40
会場：オンライン配信
実績：教育学科に在籍する学生26名（1年生）
- ケ. 札幌スポーツ&メディカル専門学校スポーツ保育科
日時：令和3年2月3日（火）11：00～12：30
会場：オンライン配信
実績：スポーツ保育科に在籍する学生19名（1年生）

[実施するプロセス]

北海道内の幼稚園教諭養成校と連携協力し、当協会担当者・現役幼稚園教諭・保育教諭が養成校へ訪問し、幼稚園教諭・保育教諭として就職を希望している学生に対して、その魅力をPRするとともに、現任教員からの体験談・ディスカッション・質疑応答などを通して正しく必要な情報を伝え、幼稚園への就職者増加、就職後のミスマッチなどの課題を解消し、人材確保・早期離職の防止につなげる。

[助言等の反映・工夫した点・留意点]

協会側からの一方的な伝達にならないよう、園内の映像など効果的な PR を短時間でを行い、なるべく参加者と質疑応答やディスカッションの時間を多くとり、疑問や不安の解消を目的とした。また、説明や質疑応答に対応する現役教員は可能な限り実施校の OB とし、より参加者が親近感を持てるよう配慮した。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策により、実際に養成校に訪問することが難しい環境であったことから、急遽、オンライン開催を可能とし、柔軟に対応できるよう進めた。

参加者からのアンケートについては、定量的な評価を少なくし、より具体的な意見を収集し、取り組みの改善と業界・園としての取り組みに繋げられる内容とした。

[実施効果]

本年度、「幼稚園・認定こども園キャラバン」との名称にて新規採用の促進を図るべく、北海道内の幼稚園教諭養成課程を有する養成校（大学・短期大学・専門学校）32 校から実施希望校を募り、9 校（大学 2 校、短期大学 2 校、専門学校 5 校）にて計 201 名の学生の参加により事業を実施した。

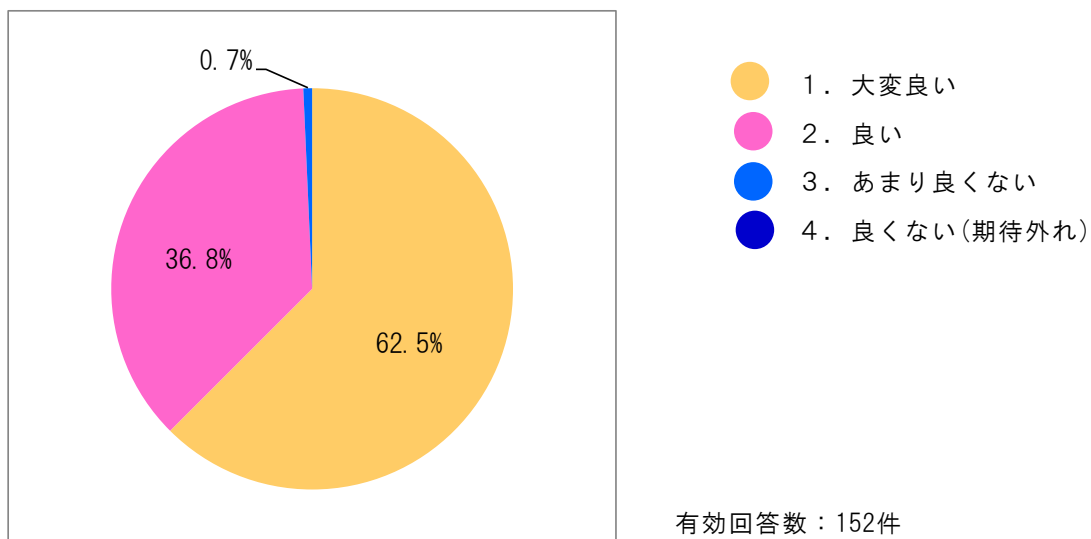
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン配信での実施もあったが、実施した学生からのアンケート調査では、本事業に対する感想としては「大変良い」「良い」併せて 99.3%（前年 98.3%）となり、引き続き大変好評な実施結果となった。また、事業実施前に参加者がもっていた漠然とした誤ったネガティブなイメージに対し、正しい情報を伝えることができ、不安や疑問の解消につなげることに大きな効果があったものと想定される。

[今後の課題]

- ・ 年々、養成校の授業スケジュールが過密になっていることから、養成校とさらに綿密なスケジュール調整を行い、可能な限り養成校側に合わせた日程・時間、開催内容としていくことが、今後の実施校数増加と参加者数増加のためには必要であり、協会としてその対応を図っていく。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響がまだ続くことや変異種による再拡大も考慮し、オンライン配信の充実を図り、オンラインであっても相互に活発な意見交換や質疑応答が可能となるよう進める。
- ・ 対象者を就職年次の学生からその他の年次まで広げたため、1 年次と 2 年次など複数回参加している場合、内容が重複することがあるため、内容・メニューの多様化を行う必要があり、アンケート調査等からその改善を図る。
- ・ 映像については、録画した映像を見せることに併せて、オンライン配信を活用し、対面式であっても会場と園をライブ配信でつなぐなど、実際の現場の雰囲気を感じながら遠隔地の教職員とのディスカッションを行うなど工夫を行う。
- ・ 本年度及び過去のアンケート調査結果から、より効果的なアンケート調査の内容を検討する。併せて養成校との連携により、追跡調査を実施する。

(本事業の評価)

— 『幼稚園・認定こども園キャラバン』全体を通しての評価 —



○ 採用試験を受ける園を選ぶ基準（優先順位）

	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校
場所	4位	1位	2位	2位	4位	2位	1位
給与待遇	3位	3位	3位	3位	3位	4位	3位
保育内容	2位	4位	4位	3位	2位	2位	4位
園の雰囲気 実習・見学の有無	1位	2位	1位	1位	1位	1位	2位
ホームページ ネットでの評判	6位	6位	6位	6位	6位	5位	6位
先生の意見	5位	5位	5位	5位	5位	6位	5位
その他	7位	7位	7位	7位	7位	7位	7位

※その他（園児数／職員体制／人間関係／配偶者の転勤の場）

有効回答数：156件

○ 園で働くにあたって心配に思うこと（優先順位）

	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校
通勤 一人暮らし	6位	6位	6位	6位	5位	5位	6位
給与待遇	5位	5位	4位	5位	3位	4位	5位
保育内容 自分の力量	2位	1位	2位	3位	1位	3位	4位
園の雰囲気 職場の人間関係	1位	2位	1位	1位	2位	1位	1位
保護者との関わり	4位	3位	3位	2位	4位	2位	2位
園児との関わり 学級運営	3位	4位	5位	4位	6位	6位	3位
その他	7位	7位	7位	7位	7位	7位	7位

※その他（残業／自分の体力）

有効回答数：156件

「採用試験を受ける園を選ぶ基準」は「園の雰囲気、実習・見学の有無」が1・2位を占める結果となった。その次には「場所」となり、昨年2位であった「給与待遇」は4位に後退し、3位には「保育内容」となった。

「給与待遇」を選択基準としている割合は一昨年、昨年、本年と徐々に下がっており、給与待遇よりも働きやすさが重視された結果となった。

「園で働くにあたって心配に思うこと」でも前年同様に「園の雰囲気、職場の人間関係」が1位となり、この結果からも同様の傾向が見られる。2位には「保育内容・自分の力量」が挙げられており、3位には「保護者との関わり」となり、ここでも「給与待遇」が前年までの中位から下位に後退している。働きやすさや仕事の内容を重視している結果が見られ、この結果は前年までよりもさらに顕著になってきている。

「保育内容、自分の力量」を心配している回答が前年度に引き続き上位にあがっているが、これについては各園でも課題とする育成につながるものであり、新卒で入園時からすぐに担任を任せられることがあるという不安、園が将来のスキルアップやキャリアアップの研修、キャリアビジョンをしっかりと示すことができるか、そして、いかに新採用教員をフォロー・育成できるかが、幼稚園教諭・保育教諭の希望者増加と早期離職防止の鍵となると思われる結果となっている。

■ 単語出現頻度

- ・ 文章中出现する単語の頻出度を表にしている。単語ごとに表示されている「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表す。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになる。

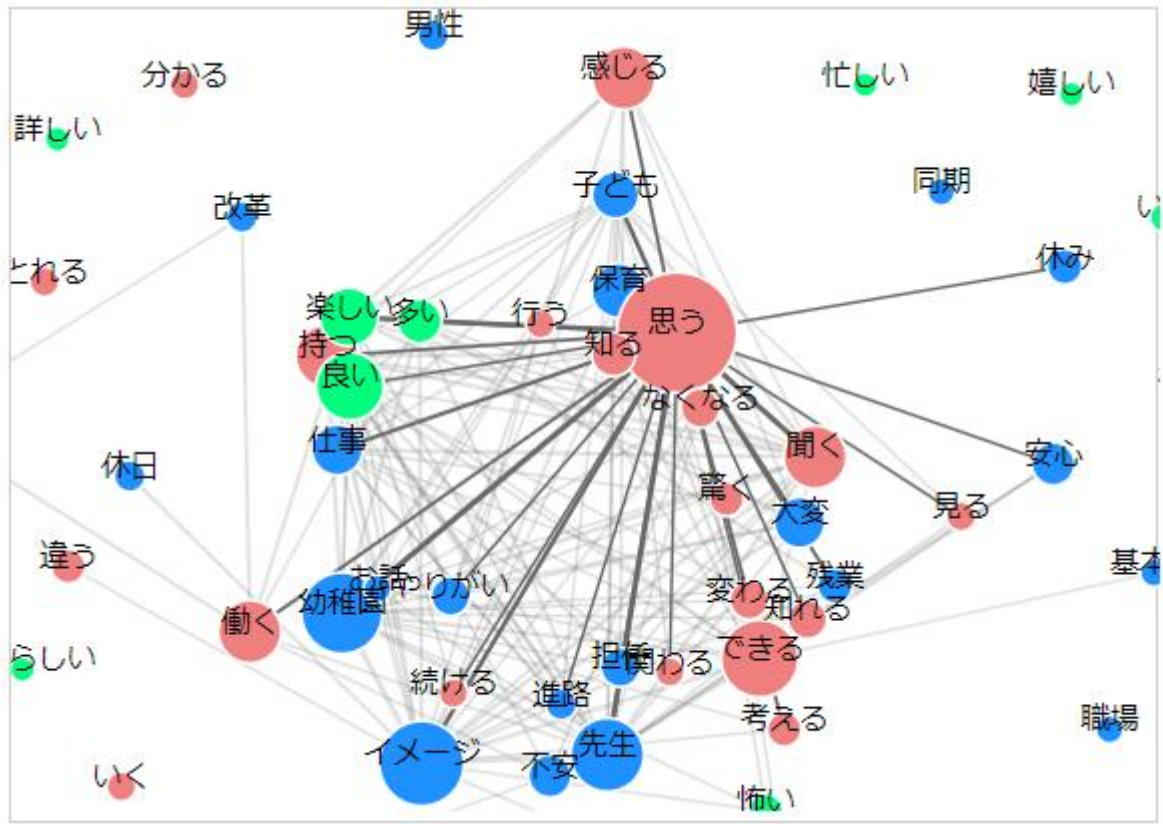
■ 名詞	スコア	出現頻度
イメージ	3.62	17
幼稚園	11.42	16
先生	1.02	14
保育	5.03	9
仕事	0.13	8
大変	0.48	8
子ども	0.92	7
安心	0.42	6
不安	0.73	6
現場	0.42	5
やりがい	9.04	5
担任	3.19	5
休み	0.20	4
残業	0.77	4

■ 動詞	スコア	出現頻度
思う	0.25	21
できる	0.14	12
聞く	0.20	9
働く	0.92	9
持つ	0.24	9
感じる	0.48	9
知る	0.07	5
変わる	0.09	4
知れる	0.51	4
なくなる	0.26	4
考える	0.02	3
驚く	0.17	3
違う	0.04	3

■ 形容詞	スコア	出現頻度
良い	0.17	10
楽しい	0.25	8
多い	0.08	5
怖い	0.05	3
やすい	0.06	3
早い	0.01	2
いい	0.00	2
無い	0.00	1
忙しい	0.02	1
詳しい	0.01	1
厳しい	0.02	1
嬉しい	0.01	1
安い	0.01	1
重い	0.02	1
素晴らしい	0.01	1
辛い	0.01	1
優しい	0.01	1

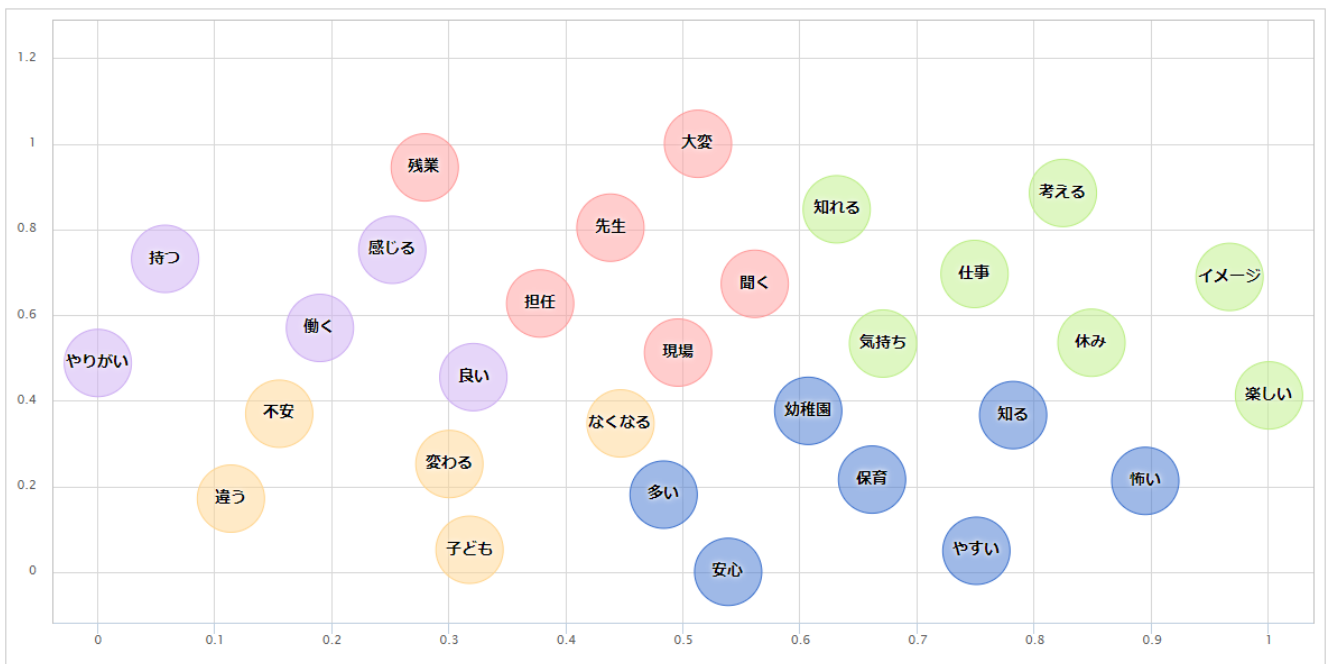
■ 共起ネットワーク

- 文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。



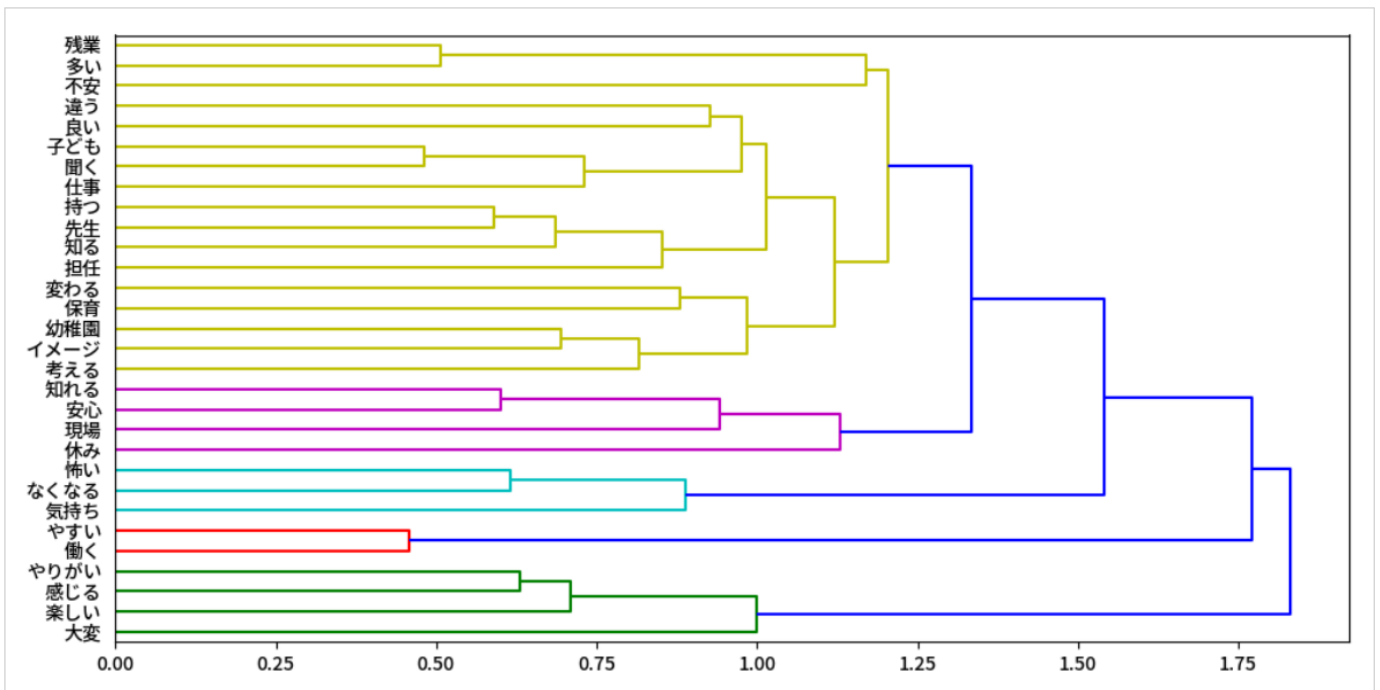
■ 2次元マップ

- 文章中での出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置されています。距離が近い単語は色分けして、グループにまとめている。



■ 階層クラスタリング

- ・ 文章中での出現傾向が似た単語をまとまりとしてとらえられるよう樹形図で表したものです。グループは色分けして表示している。



[分析結果]

参加者からの自由記述による回答をマイニング分析した結果、「ワードクラウド」「単語出現頻度」から、このキャラバン事業における現役教員からの話や質疑応答等により「幼稚園」に対して具体的なイメージが湧き、当初の想像よりも「働きやすい職場」で「やりがい」がある仕事であるということがしっかりと伝わる結果となった。

その反面、「係り受け分析」「サマリー分析」からは幼稚園の先生という職業に対する「怖さ」、担任という責任の「つらさ」、「不安」「厳しい」という単語も多く出現し、もともと持っている幼稚園の先生という仕事、また、職場・労働環境等に対するイメージへのネガティブな意見も多く見られる結果となっている。

[参加者からの自由記述]

Q. 現場の先生たちの声を聞いて、新たに知ったこと気づいたこと、今までのイメージと違って
いたこと、考えが変わったことなどがあれば教えてください。

- 幼稚園が怖いというイメージがなくなって、行ってみたい気持ちができた。
- イメージしていた先生の様子よりも、顔が生き生きとしていた。それぞれの園で仕事の内容がここまで変わること驚いた。
- 自分が想像していたイメージと全く違いました。幼稚園は少し怖いというイメージを持っていましたが、先生方の話を聞いて、怖いというイメージはなくなりました。
- 残業が多い、人間関係が厳しいというイメージを持っていて、幼稚園の先生は大変そうだと思ってたけど、そんなことはないのだと分かった。
- とにかく忙しそうというイメージがあったので、退勤が早かったり、昔に比べて休日などの待遇が良くなっていることに驚きました。

- 幼稚園の先生は仕事が多く残業をしているイメージでしたが、話を聞いてみて、仕事を幼稚園で終わらせて、思っていたよりも早い時間に帰っていたので驚きました。
- 男性保育士についてのイメージが良くないのかなということを知ることができて良かったです。
- 休日があまりないというイメージがあったのですが、有給や大型連休もとれるというのがびっくりしました。
- 人間関係が良い職場もあるということ。働きやすくなってきているということ。
- 現場の環境が改善していていること。
- 休みはほぼ無いと思っていたので、ちゃんと休みや育休が使えることに安心した。働き方改革が保育現場でもされているのだと、前より休みのことや勤務時間に対しての不安が減りました。
- 残業が多いのかと思ってましたが、働き方改革で働きやすくなっているのだとわかりました。
- 先生方が笑顔で楽しそうに話しているのを見て、子ども達と関わる仕事はやはり素敵だと思いました。
- 休みについて、思っていたより長期でとれることがわかった。働き方改革で、働きやすい職場が増えていることが分かった。
- 幼稚園の印象が変わった。就職先として、幼稚園も選択肢に入りました。
- 最初は、幼稚園と聞くと教育熱心な先生が多く、働く環境も大変なのかなと思いましたが、協力し合い、子ども1人ひとりが楽しく過ごせる場所を作っていることを知れて、とても良いイメージが持てました。お給料のことも詳しくではありませんでしたが、安心していいことを知れて良かったです。
- 幼稚園は学校ということ意識した保育ばかり行っているというイメージがありましたが、遊びを大切にしている保育が行っていることがよく理解でき、幼稚園のイメージが変わりました。
- 現場の先生たちも迷ったり、困っている事がある中、いろんな事をやりながら日々を過ごしていることがわかりました。
- とても大変なイメージがたくさんあったけど、先生は大変なこともあるけど、とても楽しそうで、幼稚園も考えてみようかなと思った。
- 進路希望ではなかったので関心がなかったのですが、今日お話を聞いて、良い部分ややりがいを知ることができたので、子どもの先生という仕事に関心を持つことができて良かったです。
- 大変なことだらけだと思いましたが、大変なことの中にも嬉しいこと、やりがいのあること等があり、楽しいと感じることがわかりました。
- 1年目から担任を持つことにとても不安を感じていましたが、とても楽しそうに1年目から働いている様子をおしえていただいて、少し不安がなくなりました。
- もし私が幼稚園で担任を持ったらできないかと思っていましたが、子ども達の成長を間近で見る事ができるのが担任の先生というお話を聞いて、担任を持つということは自分にとってプラスなんだと思いました。
- 1年目から担任を持つと聞いて、それなら幼稚園は無理かもと思っていたけど、それ以上に沢山の魅力があることを知り、幼稚園もいいかもしれないと感じた。まだ100%幼稚園が良いと思ったわけではないけれど、自分の特技などを活かせるのはどちらかをよく考え、進路を決めたい。
- 保護者の方の対応はマイナスに感じてしまいがちだったけれど、自分が歩み寄ろうとすることで保護者の方も答えてくれるのだと感じた。給与の面でも大きな心配はいらなかったと思った。大変そうというイメージが漠然とあったけれど、シフト制であったり、基本的にしっかりと自分の時間（休養の時間）もとることができるのだと知りました。

- 給与の面の安定性や、休日・残業の有無がイメージと違っていた。また、ボーナスもあるみたいなので、安心しました。
- 幼稚園の先生は給料が安いと思っていたけど、1人暮らしができるくらいもらえると知れて、安心できた。
- 基本的に定時退勤できることや、保育の仕事を一生涯の仕事としてやっていけるよう努力してくださっていることに安心感を覚えました。
- ピアノができなくて気が重かったので、少し肩の力が抜けて良かったです。（だからと言って練習しない訳ではないです！）
- 現時点での進路先はまだわかりませんが、今回の話を聞いて、子どもと関わる仕事に就きたいと思いました。一年目でクラスを持つことに不安があったのですが、サポートの先生がいるということを知り、不安が少しなくなりました。
- 楽しいという理由で働き続けている先生は素晴らしいと思った。私もそれくらいのやりがい保育職に見出せる人になりたい。
- 大変な事だけではなく、楽しいことややりがい等たくさんあると改めて感じた。園によってそれぞれ違うことがわかったので、就活をする際には色々調べて自分が楽しんで働ける場所につけるようにしたいと思った。
- 改めて保育の道を目指していこうと思えました。不安が消えた部分も多かったです。
- 子どもが好きという気持ちだけでは続けられるものではないと思っていましたが、現場の方たちの話を聞いて、やっぱり子どもが好きという気持ちからやりがいや楽しさを感じるのだと思いました。
- 辛いことがあっても同期の支えや先のことを考えるなどして、皆さん一人ひとりが乗り越えてきたという話を聞いて、自分が思っていたよりも保育の仕事が優しいイメージに変わりました。
- 現場の先生もポジティブだけではない人間的な考えを持っているのだと知れて、少し安心しました。
- 1人で悩むのではなく、同期や先輩に言える環境は、信頼関係を築けるし、ストレスなく働けると感じた。

Q. キャラバンを受けての感想や、もっと詳しく知りたかったことなどがあれば教えてください。

- 良い面も悪い面もさらけ出してくれるという方がいるというのは、とても有難かったです。後悔しないためにも、全てを話してくださる方が次回も来て下されば良いなと思っています。
- 先生方の経験やマイナスなイメージばかりでないことを知ることができて良かったと思います。特に『男性には男性の、女性には女性にしかできないことがある』というメッセージが印象に残りました。
- 大人は美化することが多いのですが、正直な詳しい話を聞くことができたので、とても参考になりました。
- もっと固い雰囲気での授業かと思っていたので、こういった形式で楽しく色々おしえていただけて、とても勉強になった。他の園の先生の様子なども見てみたかった。
- 固定されていたイメージが良い意味で崩れました。
- 今日、実際に先生のお話を聞くまでは、可愛い1・2歳児がいるから保育園で働こうかなと単純な考えをしていた自分がいました。しかし、実体験を聞き、自分に合っているのは幼稚園なのではないかと思いました。とても心が動いたキャラバンでした。ありがとうございました。
- 教科書では学ぶことができない保育現場の実態を知ることができて良かった。

- 自分はピアノがとても苦手なため、幼稚園は向いていないと思い込んでいましたが、自分の得意なことを1つでも多く見つければ良いと、今日の授業を通して考えが変わりました。
- まだまだ知らない部分がたくさんあると思った。保育所志望でしたが、幼稚園・認定こども園も就職先の1つとして考えようと思いました。
- 大学に入ってから保育への仕事がマイナスのイメージが大きくなったのですが、自分の仕事のやり方を変えたら気持ちが楽になったり、楽しさを感じることができると知りました。給料面が一番疑問だったのですが、私が想像していたよりも安心できること、休みはお盆と正月に10日間もとれること、残業や持ち帰りの業務を減らすためにイベントの改善をしていると知り、とても興味深い時間となりました。
- 先生方の話を実際に聞いたのは本当に大きいことです。欲を言うと、もっと多くの方々の話を聞きたかったです。本日はありがとうございました。
- 現場の声を実際に聞くことができ、とても勉強になりました。就職への不安を少しでも軽くすることができたので、もう少し頑張ってみようと思います。就職してからの1~2年をどう過ごしていけるのかが不安なので、もう少し詳しくおしえていただきたいかったです。
- マイナスなイメージが多かったが、話を聞いてそのイメージが減り、働きやすい環境もあるのだとわかりました。
- 不安に思っていたことが少し解消され、就職に向けて前向きに動き出そうという意欲が湧きました。
- 大変な仕事であることは覚悟していますが、更に腹を決めて頑張らないといけないと思いました。
- 自分の性格も考え、あまり『良い保育士像』を求めすぎないということも大事だなあと感じました。
- 自分の想像していた内容と違いプラスな面が増えた。自分も苦手なことがあり、“苦手だけれど頑張らないと”と思っていたが、周りのフォローがあることを知れて安心した。自分の得意なことを伸ばそうと思った。
- 保育者の仕事は厳しいものばかりだと思っていたので、楽しい場面があると聞いて安心しました。
- 実習などでは聞けない踏み込んだ話を聞いて、貴重な体験になりました。また、今後の活動の意欲に繋がりました。
- 学生のうちから自分の強みになることを積み重ねていこうと思いました。早く子どもと関わる仕事がしたいです。
- あまり聞けないことをおしえてくださり、とてもためになりました。今日のことを参考にして、今後、就職についてしっかり考えていきたいと思います。
- 幼稚園と認定こども園について、分かっていると思っていたが、よく考えてみると知らないことが多くて、今回、大変貴重な話を聞くことができ良かったです。就職に向けての不安が少し減りました。
- 今回この授業を受けて、幼稚園の先生に対するイメージが大きく変わりました。今まで不安に思っていた仕事時間や給料なども自分が思っていたよりも良くなっていて、とても参考になりました。また、実際に働いている先生方からお話を聞くことで、とても分かりやすかったり、イメージ等が湧きやすかったです。
- 想像していたものと仕事内容が違っていた部分があったので、もっと理解することが大切なんだと気づきました。今後の進路を考えていく上で、本日のキャラバンを参考にしていきたいです。

- 幼稚園の良い所や保護者への対応などを詳しく聞くことができて、凄く勉強になりました。給料の事も聞けて安心しました。そして、自分の好きなことができる職場を選ぶことで長続きすることが分かったので、私も自分の力を発揮できる場所を選んで頑張りたいと思いました。
- 保育園と幼稚園、どちらを選択するのが自分に合っているのか、まだ全然決まってはいませんが、保育者として子どもたちとどう向き合うのか、関わっていくのか、また、保護者との関わり方など自分の不安だった部分を詳しく知ることができて良かったです。現役の先生や園長先生のお話から学べたことを今後の実習に活かせるようにしたいです。
- 幼稚園について知る機会がなかったため、詳しいことまで聞くことができて良かったです。私は将来、幼稚園か施設で迷っているため、様々な話をたくさん聞いて決めようと思いました。
- 本学を卒業された先生方のお話を聞いて、子どもと関わることの難しさや関わる上でのやりがい等を改めて知ることができたと思いました。そして、とにかく苦手意識を持つのではなく、それを克服しよう努力することはもちろん、苦手なことばかりにとられるのではなく、自分の好きなことや得意なことを活かしたり伸ばしたりすることが大切なんだと感じました。
- 実際の勤務体制ややりがい等を園長先生や現職の先生から聞くことができ、とても勉強になりました。
- 個人的な話ですが、ひとり親でありながら現職教諭として働いている先生の話を知りたいです。

② 幼稚園交流事業（高校生を対象とした公私連携による実践保育体験授業）

新型コロナウイルス感染症の影響により、当該内容について計画していた幼稚園交流事業は中止となった。

③ リーフレット・ポスター・Web サイト、公開懇談会による幼稚園の魅力発信

実施内容：養成校の学生に向けて PR を図る。高等学校においては進路指導担当教員、また、生徒にもいまだに労働環境・労働条件が悪いという職業としてのネガティブイメージがあり、進路指導担当教員が養成校への進学を進めなかったり、そもそも生徒が進路として考えていない状況もあるため、年々改善されている正しい姿を伝え、進路として検討できるような内容とした。

公開懇談会の映像は養成校・高等学校進路指導担当を中心に動画配信を行った。また、養成校にはリーフレットとポスターを、私立・公立高等学校にはポスターを配布し、掲示と学生・生徒への配布・Web サイトの紹介について依頼した。併せて、教育委員会を通じて、公立高等学校長への周知依頼も行い、その後、Web サイトについてアクセス解析を行い、その効果を分析した。

ア. 北海道の保育者不足をめぐる公開懇談～三つの立場からの発言～

日時：令和3年2月18日（木）17：00～18：30

会場：札幌ルーテルセンタービル2階 ルーテルホール

出席者：コーディネーター 札幌国際大学短期大学部 学長 平野良明

パネラー 藤女子大学人間生活学部保育科 教授 高橋真由美

学校法人米永学園澄川幼稚園 園長 米永桃子

東海大学附属札幌高等学校 教諭・進路指導部主任 大柳依里

来場者：北海道教育庁幼児教育推進室幼児教育推進センター長 大畑明美
北海道教育庁幼児教育推進室幼児教育センター総括主査 岩上沢史
札幌国際大学短期大学部准教授 朝地信介、伊藤桂子、小川久恵
札幌国際大学准教授 木村彰子
報道機関 北海道新聞社、北海道通信社

(開催結果)

自己紹介後、コーディネーター平野先生の進行で次のとおり公開懇談が実施された。

- ・ 公開懇談の目的 保育人材が十分に確保されていない実情があり、現状の理解と対策の検討、行動に向けて幼児教育、養成校、高校の三つの立場からの懇談を行う。
- ・ 幼稚園における教員不足の実態
- ・ 養成校における求人に対する就職状況、学生数減少状況
- ・ 高校における進路傾向や職業観、勤務校における保育者養成校への進学状況
- ・ 養成校における学生の意識と実態
- ・ 幼稚園における待遇等の改善

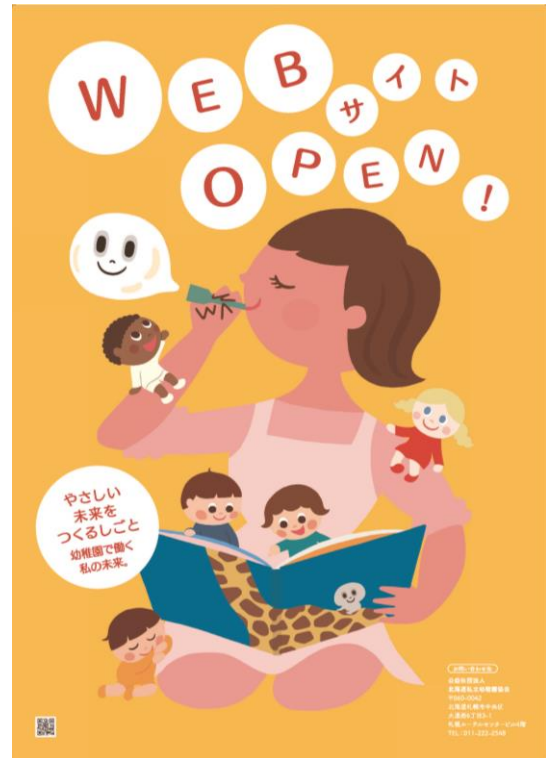
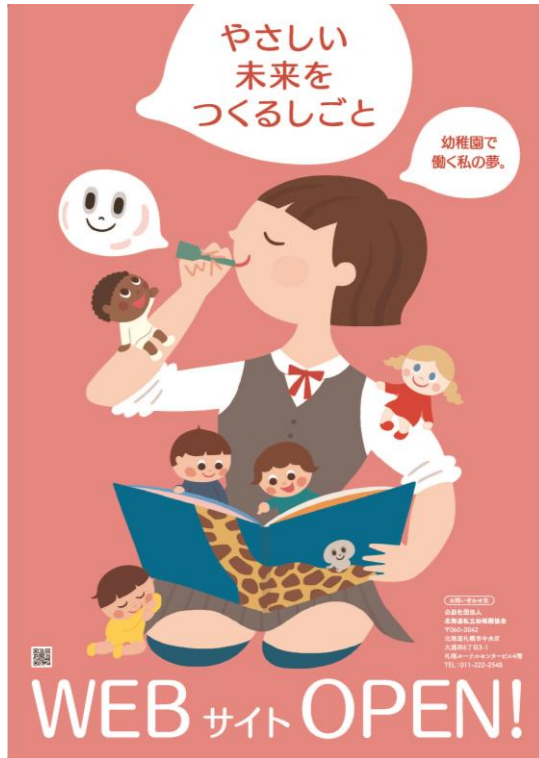
まとめとして保育の仕事が長く働けてやりがいのある安定した仕事であることを高校の進路指導の先生、学生、保護者に知ってもらい、養成校への進学、保育現場への就職へとつなげ、優秀な保育人材を確保して、明日の北海道を支えたいと三者とも一致した意見となった。

【公開懇談映像配信】 http://www.hokushiyou.or.jp/2020_pt.html



イ. ポスター・リーフレットの配布

ポスターは高等学校の生徒及び養成校の学生をメインターゲットとし、現在の高校生の皆様が幼児期にはじまった「おばけのマール」の絵を描かれている札幌市在住のイラストレーター 中井 令 (なかい れい) 氏の描き下ろしにより、より職業を身近に感じられるよう、自分が幼稚園の先生になる将来をイメージするポスターとした。ポスター左下部の QR コードをスマートフォンで読み込むことにより、職業紹介 Web サイトを閲覧できるようにした。北海道内の高等学校 (公立 224 校、私立 54 校)、養成校 32 校に配布した。



また、リーフレットはポスターと同じデザインを使用し、北海道の幼稚園の現状や研修制度、教員免許状更新講習、退職金制度、私学共済など、養成校に訪問して行う幼稚園キャラバンで質問の多かった事項を中心に、安心して働ける環境を解説した内容としている。リーフレットは幼稚園キャラバンの際に養成校の学生に配布した。

私立幼稚園等（学校法人から移行した認定こども園を含む。以下、私立幼稚園等）では、各園独自の特色ある建学の精神と教育目的に沿って教育・保育が進められています。

このため、園や各地域の幼稚園関係団体では勤務する教職員の教育研修体制を整え、教職員の資質向上を図り、日々、充実した教育を目指しています。

また、労働環境についても過去には多くの課題がありましたが、国の補助（処遇改善等）や近年の働き方改革などにより、今では多くの園で労働環境・待遇改善の向上が進められています。

このほか、当協会等をはじめとした、私学関係団体においても教育研修体制や福利厚生制度など様々な制度があり、私立幼稚園等で働く教職員の皆様のサポートを行っています。

—あなたの想いが子どもたちの力に—



公益社団法人北海道私立幼稚園協会

〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西6丁目3-1
 札幌ルーテルセンタービル4階
 電話：011(222)2548 FAX：011(232)4521
 E-mail：info@hokushiyou.or.jp



やさしい未来をつくるしごと

君の将来と
すてきな
世界をつくら



ようちえんの先生

To the future of children

幼稚園・こども園就職ガイド

私立幼稚園等（学校法人から移行した認定こども園を含む。以下、私立幼稚園等）では、各園独自の特色ある建学の精神と教育目的に沿って教育・保育が進められています。

このため、園や各地域の幼稚園関係団体では勤務する教職員の教育研修体制を整え、教職員の資質向上を図り、日々、充実した教育を目指しています。

また、労働環境についても過去には多くの課題がありました。国の補助（処遇改善等）や近年の働き方改革などにより、今では多くの園で労働環境・待遇改善の向上が進められています。

このほか、当協会をはじめとした、私学関係団体においても教育研修体制や福利厚生制度など様々な制度があり、私立幼稚園等で働く教職員の皆様のサポートを行っています。



—あなたの想いが子どもたちの力に—



公益社団法人北海道私立幼稚園協会

〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西6丁目3-1
札幌ルーテルセンタービル4階
電話：011(222)2548 FAX：011(232)4521
E-mail: info@hokushiyou.or.jp



ようちえんの先生

To the future of children

幼稚園・こども園就職ガイド

—あなたの想いが子どもたちの力に—
「あなたの想いと力を必要としている
子どもたち、そして仲間がいます」

現在、全国には約6,400園の私立幼稚園があり、そこには約92万7千人の園児が在籍し、教員数は約9万2千人となっています。（令和2年5月1日現在 文部科学省学校基本調査）平成27年度からは「子ども・子育て支援新制度」が施行され、現在、私立幼稚園から移行した園も含め、私立の幼保連携型認定こども園は約5,000園と年々増加し、園児数は約66万4千人、教員数は約12万人となっています。

北海道に目を向けると現在、私立幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む）は354園、園児数約4万人、教員数約3,900人となっており、認定こども園（幼保連携型のすべての法人立）の園数は206園、園児数約2万8千人、教員数約4,700人となっています。※いずれも教員数は本務者

北海道の私立幼稚園及び認定こども園の先生、そして、園に関わるすべての人たちは、子どもたちの幸せを願い、日々、笑い・喜び、汗を流し、時には涙を流しながらも、子どもたちの笑顔にまた力をもらい、仲間とともに教育・保育に全力で取り組んでいます。

子どもたちが将来を生きる力を育む、大切な幼児期に関わる仕事。

子どもたち、そして仲間があなたの想いと力を必要としています。

子どもたち、仲間と共に一緒に未来を創っていきましょう。



北海道内の私立幼稚園等のうち、508園（令和3年1月1日現在）が公益社団法人北海道私立幼稚園協会（以下、北私幼）に加盟しています。

北私幼では研修事業・広報事業・退職金制度の運営、そして、教員免許状更新講習など様々な事業を行っています。

—研修事業—

北私幼加盟園に勤務されている教職員の皆様に参加できる研修です。毎回、その時々々の課題に応じた様々な研修が実施されています。

【主な研修】

- 北海道私立幼稚園教育研究大会
- 道内5ブロックによる教育研究ブロック大会
- 北海道幼稚園教諭中央カレント・冬季教員研修会
- 支部研修会
- 経営・リーダー研修会



—教員免許状更新講習—

平成21年度から始まった文部科学省が所管する国の制度「教員免許更新制」に伴うものです。

すべての教員免許保持者を対象とし、教員として勤務するためには10年ごとに30時間（6時間×5講習）の講習を受講し、教員免許を更新することが義務づけられています。

北私幼では道内で唯一、幼稚園教諭向けの更新講習を実施しており、現職の方をはじめ多くの幼稚園教諭免許をお持ちの方の更新をサポートしています。

北私幼加盟の園に勤務する教員免許をお持ちの方は優先枠と会員料金で受講することができます。

—退職金制度事業—

北私幼では加盟園に勤務する教職員の皆様が退職された際に園から給付される退職金事業を行っています。北私幼加盟園のうち、約9割がこの制度に加入しており、大切な福利厚生を担っています。

【退職金の支給モデル】

勤続 3年 基礎となる給与18万5千円 約 51万円
勤続 10年 基礎となる給与25万円 約213万円
勤続 20年 基礎となる給与31万5千円 約500万円
※基礎となる給与は過去5年の平均給与

—私学共済—

学校法人に勤務し報酬を受ける方は加入が義務づけられています。（常用的に勤務される場合）

短期給付事業（民間の健康保険制度に相当）や年金制度の他、福祉事業（保健事業、共済保険事業、加入者貸付、積立預金、共済年金、レジャーや買い物などの割引、結婚手当金、災害見舞金など）を実施しており、これらを受給・利用できる制度です。



ウ. Web サイト

高校生の皆様に幼稚園また幼稚園教諭という職業の魅力と重要性、現在の労働環境・雇用条件等に関して正しく理解いただくとともに、ポスター・リーフレットと同じ「おぼけのマール」の絵を描かれている札幌市在住のイラストレーター 中井 令（なかいいい）氏によるデザインに統一し、併せて、中井氏により現場の園長・教職員のインタビュー等の取材を行い、実際の職場の現状をリアルに伝える内容とした。

内容は「安心して働ける労働環境と充実した制度」の紹介、「突撃インタビュー」として幼稚園紹介、「ファッションチェック」として先生の園におけるファッションを紹介して、サイトを閲覧する興味や親近感を持てるようにした。さらに、養成校一覧やブログを掲載し、養成校の情報収集、様々な活動の紹介を行い、養成校への進学、幼稚園への就職意識を高めることを目的としている。

【職業紹介サイト】 <https://codomo.work/>



道内中小企業との比較

平均年収の比較



比較データ（道内中小企業）
2018年の平均賃金
全道平均（女性・20歳）※短大卒初任給想定

幼稚園の方が
短大卒 約58万円高い！



※出典：道内中小企業の賃金・諸手当・退職金・役員報酬の実態（2019年度版）～（一社）北海道中小企業家同友会
※幼稚園のグラフデータは札幌市及び近郊地区の平均データ
※短大卒は22歳を想定しているため参考値

当協会
加盟校

幼稚園の先生の退職金制度の特徴

- ①加入対象：当協会加盟の学校法人が設置する私立の幼稚園、こども園・認可保育所ほか
- ②給付対象：3年以上勤務する加入教職員
- ③加入負担金（掛け金）：勤務している園が負担
- ④再加入制度
 - ▶退職後5年以内に再就職した場合、受け取った退職金を変換して再加入することにより、加入期間を通算して継続できる。
 - ▶当協会の退職金制度に加入している園であれば、退職時と異なる園に再就職した場合でも再加入が可能
- ⑤退職金制度の充実
 - ▶現在、退職金学の増額などをはじめ、より充実した制度への見直しを実施中（令和3年度改正予定）

幼稚園の先生の退職金のモデルケース



道内中小企業との比較

幼稚園の方が
約2倍以上 高い！

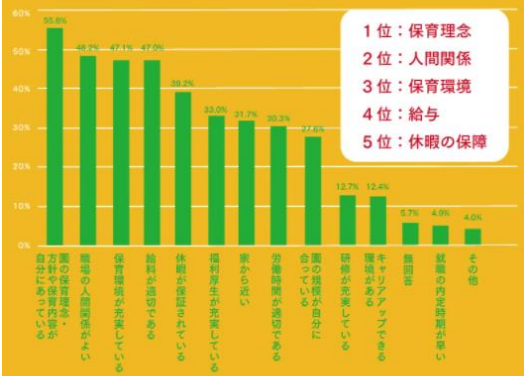


比較データ（道内中小企業）
・中小企業は2018年度全道平均（女性）
・当協会データは短大卒で初任給を17.5万円・年5000円の昇給で試算



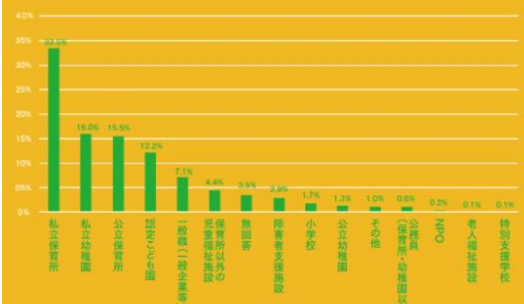
※出典：道内中小企業の賃金・諸手当・退職金・役員報酬の実態（2019年度版）～（一社）北海道中小企業家同友会

学生が就職先を選ぶポイント



子ども・子育て推進調査研究事業（厚生労働省）
「推定保育士養成施設卒業生の内定先等に関する研究」 研究報告書

就職先内定の状況（全国・職種）



子ども・子育て推進調査研究事業（厚生労働省）
「推定保育士養成施設卒業生の内定先等に関する研究」 研究報告書

突撃 インタビュー!



せいめいのもり

庭庭幼稚園

白樺幼稚園



やさしい 未来を つくるしごと

幼稚園ではたらくことに興味をもっているあなたのために絵本「おぼけのマルシリーズ」の絵を描いている絵本作家のなかいれいさんが幼稚園にインタビューに行きました。

安心。給与は高く、残業なし!

Q: この園での働き方や保育に対する思いをお聞かせください。

司馬政一理事長:

まず保育業界全体において、子どもとどう向き合っていくべきなのか。どうしても保育園や幼稚園の先生はただ単純に子どもとお金を働けているというイメージが強いことが問題です。保育の専門性、母親とは違う視点で子どもの成長を促すことがまだ社会的には認められていないのです。そのために絶対的に給与を上げること、残業をなくしていく、といった先生方の働きやすい環境をどう整えていくかですね。これまでの保育業界は根拠がなかったと思います。保育士不足は仕方ないという側面には責任があると感じています。

うちの場合は、能力不足を減らすために、担任は新人とベテランの先生と2人で組んでもらい、新人が研修しながら業務ができるしくみにしていますし、事務仕事の負担を減らすためにICT化も図っています。やはり質の良い保育をしたいので、人員費が大きくても給与は高く設定しています。選外出庫も積極的にとりいれていますし、外の世界、いろんな園の取り組みをみて吸収して、うちの園にどう取り入れていこうか、ニュージランドでも園を経営しているので、その取り組みをみて先生たちは刺激を受けます。人材にいかにお金を投資できるかが鍵ですね。キャリアを生かしてもらうために北北私幼に加盟している幼稚園への転職であれば、退職金の引き継ぎができます。

先生方も上になるほど若い人が動きやすい環境をいかに作れるかが大切になっています。イキイキした関係性が生まれるよう、経験年数に関係なくいい意見を取り入れていくようにしています。先生自身も生きがいを含めて生きるといふことに真意であるべきだし、それをどこまでも追求していくことがそもそも保育になっていると思います。



ぼくは先生のことだいすきだよ。

Q: 幼稚園で働いていて感動した体験をお聞かせください。

高橋さん:

1年目の時に事務的なミスをしてしまい落ち込んでいた時に、担当クラスの子どもが「僕は先生のこと大好きだよ。いつも頑張ってるの見てるよ!」と声をかけてくれたんです。子どもたちの前で、いつもと変わらぬ笑顔をお見せしたいはずなのに、子どもは想像以上に敏感で私の変化に気づいていたのです。普段は口数の少ない男の子だから尚更。感謝して涙が出そうになりました。新人なのでとにかく仕事を覚えなくてはと、心に余裕がない日々を送っていましたが、子どもたち何人も救われました。



子どもたちもまた、キラキラした目で先生のことを見ているんですね。



あなたにあった幼稚園えらび。

柳田さん:

子どもたちと毎日過ごすことが、小さな感動の連続なんです。例えばはみ出して塗っていた塗り絵も、いつの間にか綺麗に色を使い分けて塗れるようになって、泣いている子どもに「どうしたの?」と声をかけてティッシュを差し出して気づかいができるようになって、小さな成長を目の当たりにして、それが積み重なることでより子どもたちが楽しく大切に思っています。辛い時も子どもたちの笑顔を見出して頑張ろうという気持ちになりますし、些細なことに感動する気持ちを忘れずにいたいと思います。



小さな喜びを感じる心を与えてくれたのは、他ならぬ子どもたちですね。



100回は1見に如かず。

Q: 幼稚園で働くことに不安を抱えている若い方が多いようです。

高橋さん:

最初は何も調べずに就職しましたが、伝統を大切にしている園もあれば、新しいものを積極的に取り入れて改善する園もあり、園によって方針が違うことを働いてから気がつきました。短大の先生もたくさん情報を持っているので、どの園が自分に合っているのかを相談することも大切だったとわかりました。結果的に今の園に転職しましたが、新人でクラスを任せられて不安な時も、先輩たちが影でサポートしてくれていたり、悩みを打ち明けられる同期もいて助けられています。



自然な笑顔になれるしごと。

Q: 幼稚園で働く。子どもと接する仕事をする上で大切にしている信条や志をお聞かせください。

高橋さん:

ありきたりですが笑顔が一番大切にしています。子どもたちが大人になって幼稚園の先生はどんな人だったかなと思いつく時、私の顔が笑っていたいと思っています。笑顔はどの職業でも大切ですが、子どもが可愛くて自然な笑顔になれる職業で幼稚園の先生に誇るものはないと思っています。

愛情から湧き出た笑顔ですから最高ですね。



柳田さん:

決めつけないことを心がけています。例えば、子どもが誰かを叩いた時、そこだけを取り切った悪いと叱るのではなく、まっと理由があるはず。前後をみて、共感できることを探したり安心につながるようにしたいです。



子どもと関わりながら、ふと心が深くなっていますね。





やさしい
未来を
つくるしごと

恵庭幼稚園
学校法人リズム学園
恵庭市大町4丁目1-11
お話ししてくれた方々
● 井内聖学 園長
● 浅野大輝 先生 保育士経験3年目
● 藤澤尚美 先生 保育士経験3年目

幼稚園ではたらくことに興味をもっているあなたのために絵本「おぼけのマーブルシリーズ」の絵を描いている絵本作家のなかいれさんが幼稚園にインタビューに行きました。

ICT化で保育の時間をたっぷりそして毎日、定時に帰宅。

Q: この園での働き方や保育に対する思いをお聞かせください。

井内聖学 園長:
当園は完全ペーパーレスにすることで先生の事務仕事が激減したため、毎日定時に帰れるんです。早い段階からICT化に取り組んでいるのですが、そのおかげで読者部増産で定時した時に読者を最小限に食い止めることができました。当時はやきた子ども園の園長をやっていたその日はお泊り会だったので、夜中に被装して停電になり電気が使えなかった時も、先生は各自のiPhoneから保護者との連絡を取ることができました。ノートパソコンは全部バッテリーで動き、データもクラウドにアップロードしていたので、ネットさえ繋がれば全て読み込むことができました。職員室もくちゃくちゃになったのですが、紙がなかったので倒れてくる書類もなく、ICT化のおかげで危機管理への対応もスムーズでした。

情報共有もできるのでフリーアドレスにし先生方の固定机が必要なくなった分、職員室の無駄スペースもなくなりました。先生が耳に引っ掛けるワイヤレスイヤホンを使って、iPhoneを無線代わりにして業務連絡をとったりと、中と外で情報共有が図れます。

当園の考え方は「管理しない」、管理費を思いやります。全ての情報が管理費に掛つてしまえば、その人じゃないとできない仕事になってしまいます。今は、共同で仕事をするので、全ての業務をミニム化することで、結果までに行き着く過程段階も見えるので、仕事のやり方を学んでもらえます。

ICT化の一番の理由は、先生方に保育をする時間を確保してもらうためです。先生方は保育をしかたく就職したのに、それ以外の事務仕事などに追われていたら意味がない。もちろん保育は強固してアナログです。絵本は特に大切にしています。

ICT化は労働環境はいろいろな悩みから解消されて、先生たちは保育に集中できそうですね。



副業だって応援します！

制度を整えることによって、先生たちは生き方の選択肢が広がる。先生方は雇われるのではなく、自分で園を選び、収入を自分で決めることができます。どんな保育士や幼稚園教師として生きていきたいかを自分で決めることができると人によって考え方が様々ありますが、互い違いを理解してもらっています。教育・保育・地域振興に関わる内容なら副業も認めています。中には起業したくてうで働いている先生もいます。

生き方の選択肢がこんなに自由だなんて、先生方のやる気につながりますね。保育士や幼稚園教師という仕事があります魅力的に感じられました。

保護者のことばに感動。

藤澤さん:
一番感動するのはやはり子どもたちの成長です。一年振り返った時に、言葉にもできずただ泣いていただけだった子が、「できないから てつだって」と言えるようになっていたり、簡単なことも出来なかったができるようになっていたのを見て、その子が一生懸命練習していた言葉を思い起こしたりと、一人一人がそれぞれに成長する姿を目の当たりにしました。保護者との関わりの中では、一年園長先生が担任で安心して一年過ごせましたと言ってもらえたりできることなら来年も言葉添えていただけたことがすごく嬉しかったです。



新人ですと時に不安があったと思いますが、頑張った甲斐がありましたね。

できなくてあたりまえ。

Q: 幼稚園で働くことに不安を抱えている若い方が多いようです。

浅野さん:
やはり1年目の時は行事や制作やピアノなど全部が初めてのことで不安でした。でも、できるはずがないしできなくて当たり前、とにかく任せられたクラスの子どもと向き会おう、できなかったこともできたらいんだと割り切って考えました。子どもが好きな点から視点に返って、正直にできない部分も輝け出して関わるようにしています。先輩たちに怒られたこともありましたが、今思うとスキルアップを促すための助言でしたし、取り方次第だと思います。



男性保育士もだいじょうぶ。

Q: まだまだ女性の方が多い職業ですが、男性の保育士を目指す人に不安を解消するメッセージをお願いします。

浅野さん:
女性と同じ土俵に立とうとするのではなく、男性だからこそ出来ることも沢山あります。その前に、自分の強みをきちんと持って入れれば、それは抜的なことである必要はない些細なことでも構わない、自分を見失わないことが大切です。

全ての職業にも通じる心強いメッセージですね。

Q: 他に学生さんたちにお伝えしたことはありますか？

藤澤さん:
学生時代にボランティアのサークルに所属していたのですが、その時に子どもたちのイベントを企画しました。実習以外でも子どもと関わる機会が多く、プロ先生のような体験をしたのは良かったと思っています。

子どもとどんなふうに関わるのか前もってイメージができたんですね。

浅野さん:
自身が子どもの時にやった遊びを振り返ってみるのもいいと思います。自分の引き出しで子どもと一緒に遊ぶことが出来るから、いろんな経験をして欲しいなと思います。





やさしい
未来を
つくるしごと

幼稚園ではたらくことに
興味をもっているあなたのために
絵本「おぼけのマーシャルシリーズ」の
絵を描いている絵本作家の
なかいれさんが
幼稚園にインタビューに行きました。

札幌白樺幼稚園
学校法人大森学園
札幌市白樺区豊町通18丁目北5-5

お話ししてくれな方々

- 中村みどり 園長
- 澤木多佳子 副園長
- 武藤未奈さん 保育士経験13年目（結婚して4年出産を経て復帰して2年目）

いつまでも慕い続ける憧れの先生

Q: この園での働き方や保育に対する思いをお聞かせください。

中村みどり 園長:

保育はやっぱりさきりがない仕事であり深夜をしり家に持ち帰り仕事をするイメージがあるかもしれませんが、それは昔の話です。今は複数担任になっていますし、働き方改革によって年間実労働時間を取り入れていて、全体の仕事は17時前に終わるようにしています。行事の前は忙しいですが遅くとも19時までは帰れるようにしています。平成14年から園長を務めていますので、古い体質の時からずっとみてきています。せっかく幼稚園の先生になりたいと養成校に行かれている若い方々に、楽しんで夢をもって長く仕事を続けてもらえるよう、その時代に合わせて葛藤しながら頭を切り替えています。私自身が子どもの頃にこの幼稚園に通っていて、当時の先生の家に憧れて幼稚園で働くことに魅力を感じ幼稚園教諭になろうと思いました。その先生とは今でも交流が続いていてお手紙も大切にとっています。



子どもの頃に憧れて大好きだった先生の家に、
今はご自身がそうなられていますね。



ピアノが苦手でも大丈夫

Q: 幼稚園で働くことに不安を抱えている若い方が多いようです。

中村みどり 園長:

ピアノが絶対弾けなくてはいけないイメージがあると思いますが、今はピアノに限らず、例えばギターを弾く人もいますし、けん玉でもバスケットボールでもダンスでも自分の特技や好きなことがあれば大丈夫です。

澤木多佳子 副園長:

ピアノについての質問は必ずありますね。その時は「大丈夫、私も弾けないから。」と伝えていますが、みな様々で、ヨサコイを踊ってくれたり、縄跳びの二重跳びができる人や、読み聞かせが上手だったり、中には自作の紙芝居を作ってきたりといろんなアイデアを持って来てくれます。自己表現ができるというのが大事ですね。



それは子どもたちにもいい影響ですね。
いろんな可能性を伸ばしていいんだと思えるわけですから。



お給料がどんどんアップ!

Q: お給料が少ないのではと気にされている声もききますが?

中村みどり 園長:

今は処遇改善が進んできていますので、新卒でも19万円ほどですし、どんどんアップしてきています。住宅手当も出ていますし有給休暇制度もあります。特に幼稚園は夏休み冬休みがありますので、海外旅行を楽しむ先生方も結構いますよ。うちの園はシンガポールの幼稚園とも姉妹提携していますので、研修を兼ねて海外の文化に触れる機会もあります。それに勤続年数に合わせて一時金が支給されます。市町村によって異なりますが、札幌市の場合は3年6年9年で10万円の支給があります。幼稚園業界としても保育の社会的評価を高めていこうと変えていこうという動きになっています。

澤木多佳子 副園長:

一人暮らしで車を所有されている先生もたくさんいます。実際に職業体験などで見学に来られると思います。悪いイメージは全く変わるとは思えずし、子どもたちが可愛くて不安なんか吹き飛んでしまいますよ。自分の幼少期も思い出です。



予想外に待遇が良くて驚いています。

幼稚園教諭の未来が明るくなりました。ぜひ学生さんたちに知ってもらいたいですね。

みんながサポート してくれるから大丈夫

Q: 保護者の方々の人間関係はいかがですか?

中村みどり 園長:

もしトラブルがあったとしても、一人で抱え込むようなことはさせません。同僚がいたり先輩がいたり。保育時間が終わった後でもいいことも悪いこともお互い報告し合い相談相手がいる環境を心がけています。今年はコロナの影響で控えています。外で飲食をしながら同期同士で情報交換したり、園に1人しか新入の先生がいないでも学園全体、市内、道内での研修会で先生同士の出合いの場がありコミュニケーションや情報交換ができます。うちの園は若い先生たちが動きやすいように、上の人たちがサポートしています。新人こそいろいろ覚えるまで時間がかかるので、自分の仕事に集中できるように慣れているベテランの先生が一生懸命に気にかけていることが多いですね。

澤木多佳子 副園長:

うちは何でも言いやすい方の職場だと思います。悩んでいることはみんな社外で話しています。新人もベテランも一緒にやろうという感じですね。



一人一人に寄り添う大切さ

Q: 幼稚園で働く、子どもと接する仕事をする上で大切にしている信念や志をお聞かせください。

中村みどり 園長:

保護者とは違い専門性といった部分で子どもたちのことを客観的にみることはできるかもしれませんが、比べるのではなく、一人一人に寄り添って向き合うということを基本にしています。どの子どもたちも自己肯定感が持てたり、大切にされていると感じて居心地がいい空間を与えることが重要だと思っています。

武藤未奈さん:

子どもたち一人一人の声を傾けることです。たとえばみんなで大きな模造紙を使って創作するとき、先生の私がこうしようと言うのではなく、何がいいと思うかと子どもたちの意見を取り入れて、みんなで作ったよという達成感を味わってもらうように心がけています。



先生方みなさんとっても素敵です。

内面から輝いているのが伝わってきました。



ファッション
チェック!



せいめいのもり

高橋美里さん (左) 榎田未那美さん (右)

おそろいのエンジ色のパーカーがカッコいい。
背中には北海道の動物がデザインされているデザイナーズパーカー。
無地で常にスタッフ間の連携を。
ショルダーバックには子どもからのプレゼントが♡
髪型やカラーリングも自由です。



恵庭幼稚園

藤澤佑香さん (左) 浅野大輝さん (右)

服装は自由です。運動の時以外のジャージ姿だけはNG
ふわりとした白いシャツが清潔感と爽しさを感じさせる
スタイルの先生たちが多い印象ですが、元アルバイトでアルバイトを
していた個性もバッチリ!



札幌白樺幼稚園

武藤未来さん

服装は自由動きやすければOK。髪型も自由。
シューズは外の出入りや、おまごとの時など頻りに脱ぎ履きするので、
履きやすく脱ぎやすいものもチョイス!
飼育や染色がお気に入り。
このエプロンはGAKKENの通販カタログから、
豊富なデザインの中から自分が好きなものを自由に選んでいます。



参加学校一覧

札幌国際大学 人文学部 心理学科 子ども心理専攻

T004-8603 札幌市清田区清田4条1丁目4-1

011-861-8844

<https://www.siu.ac.jp/academics/jinbun-kodomo/>

札幌国際大学 短期大学部 幼児教育保育学科

T004-8603 札幌市清田区清田4条1丁目4-1

011-861-8844

<https://www.siu.ac.jp/academics/tandai-childcare/>

札幌大谷大学 短期大学部 保育科

T065-6567 札幌市東区北16条東9丁目1-1

011-742-1851

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/nursery/>

光塩学園女子短期大学 保育科

T005-0012 札幌市南区真駒内上和2丁目1-1

011-561-0121

<http://tandai.koan.ac.jp/childcare/>

札幌大学 女子短期大学部 こども学科

T052-8820 札幌市東区西岡2条7丁目3-1

011-852-1181

<https://tandai.sapporo-u.ac.jp/course/child/>

明日佳幼児教育専門学校 幼児保育学科・こども保育学科

T062-0002 札幌市東区山の平3条2丁目5-5

011-643-8888

<https://anodara.ac.jp/>

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

T060-0063 札幌市中央区南2条南1丁目15

011-272-6085

<https://yoshida-fukushi.jp/hoku/>

公益社団法人
北海道私立幼稚園協会

労働環境と制度 実業インタビュー! ファッションチェック! 各学校一覧 ブログ

ブログ



新型コロナウイルス感染症の影響により、なかなか計画通りの事業が行えない中、リーフレット・ポスター・Web サイトと少しでも現在の環境の中で幼稚園・幼稚園教諭の魅力を発信出来る限りのことに努めた。

時期としては3月の事業終了近くとなったため、効果の検証は今後となって来るが、継続して実施し、その効果を検証していきたい。

公開懇談会の映像は「ダイジェスト版」「フルサイズ版」の2種類を当協会 Web サイトとストレージにアップして視聴できるようにしたが、延べ件数でダイジェスト版 53 回、フルサイズ版 31 回の視聴があった。

ポスターは高等学校及び養成校の校内掲示板への掲示を依頼しており、そこから Web サイトへ誘導する形となっているが、Web サイトの訪問数は 3 月末までに新規ユーザーで 244 アクセスとなっており、スマートフォンでの閲覧が 9 割近くとなっている。今後も PR 及び記事の更新を行い、継続してその効果を検証していきたい。また、公共施設、高校生・大学生が立ち寄る施設にも積極的な働きかけを行っていく。

まとめ

文部科学省委託事業として過去3年度にわたり受託・実施してきた令和2年度の「幼稚園の人材確保支援事業」について報告書として記した。

本年度は年明けに新型コロナウイルス感染症が確認され、北海道においては全国に先駆けて「北海道独自の緊急事態宣言」が発出され、その後、全国に緊急事態宣言が発出され、北海道では5月25日までの約3ヶ月間という長期にわたり、未曾有の状況への様々な対応に迫られた。

その後も、断続的な対策、数波にわたる感染の急拡大など、当初の計画では実施できていない様々な状況が発生したが、オンラインへの対応、事業計画の変更など出来る限りの対応を行い、取り組みを進めた。

新型コロナウイルス感染症の影響が社会のあり方、働き方、生活、また、子ども達の園生活や園運営に大きな変化を及ぼし、教職員にとっても大きな負担を与えることとなった。

これら園、教職員の負担増、また、園内の感染リスクは人材確保や幼稚園及び幼稚園の先生という魅力をPRする際に少なからずマイナスイメージとなっている実情があるが、これを気により一層の働き方改革、ICTの利活用が進められるよう、当協会としても急務として取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会全体でより一層働き方改革への取り組み、そして、新しい変化が進む中、人生の基礎を培う幼児教育・保育への期待と責任はますます大きくなっている。

そのような中、北海道では養成校への進学者が激減するという、懸念されていた課題が顕著になっており、令和3年度の養成校入学者が卒業する際にはさらに人材確保が厳しき増し、これらに対応していくには今までの計画・調査研究をさらに深め広げていかなければならない状況に直面している。

質の高い幼児教育・保育を提供し、次代を担う子どもたちのために一層の努力を行っていくためにも、この調査結果、また、今後の継続した活動が少しでも「幼稚園の人材確保」につながるきっかけと参考になるよう、引き続き本調査研究テーマをについて、取り組んでいきたい。

令和2年度文部科学省委託事業「幼稚園の人材確保支援事業」

調査研究実行委員会

文部科学省委託事業「幼稚園の人材確保支援事業」

発行：公益社団法人北海道私立幼稚園協会

発行年月日：令和 3 年 3 月 30 日

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 6 丁目 3-1

札幌ルーテルセンタービル 4 階

TEL：011-222-2548・FAX：011-232-4521

E-mail：info@hokushiyou.or.jp

URL：http://www.hokushiyou.or.jp